



第189号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 宮崎達夫
 編集人 会報編集委員長 市川武彦
 印刷所 須坂新聞社

近い・少数・同一

副会長 重倉紘一

校内研究重視という考えは大切ですが、校内研究だけでは、教科指導の専門性を磨くことは難しい面もあります。

上高井教育会は、小中学校合わせても僅か十九校、この十九校の学校規模がほぼ同一、教育会の全会員が会館に集まるにしても、車で十五分前後に集れます。「近い・少数同一」は、上高井教育会の特性です。

この特性を生かして、教師の教科の専門性を磨きあえるような教育会の運営をしたいと先輩の方々も苦心して来られたと思います。

縁あって、同時期に、この地で、教職の任に当たる者同士が、連携を保ち、親睦を深め、お互いの職能の向上を図り、研鑽を積みあう。またよその地で再会した時など、「あのとき、上高井で一緒にいたね。」と再会を懐かしみ握手を交わせる仲間を多く持つて、そんな教育会を目指した運営

は如何あるべきか。教育会の先輩の方々の課題であったに違いないし、これからの私たちの課題でもあります。

しかし、教師の研究活動といえども、保護者をはじめとして、昔のような周囲の理解と協力を得ることは難しくなっています。

今年度の信教全県研究大会は、本郡の小布施中学校と栗が丘小学校に公開授業をお願いして、研究大会が開催されました。郡の研究委員会の研究活動とは別に行われる大会だったので、当該学校はもとより、会員の負担が大きくなり過ぎることを心配しました。

幸い今年度も全会員の力で充実した活動を行うことができました。

私は、昨年度から、信濃教育会で、郡を代表して、二つのことを提案して来ました。

一つは、信教全県研究大会と郡の研究委員会の活動を重ねることができないかというこ

と。二つ目は、信教全県研究大会の東北信A（長野、更埴、上小、佐久）とB（上高井、下高井、上水内、飯水）の組み合わせを変えることができないかと言うことです。

残念ながら、十二、三年度には実現しませんでした。十四年度からは、見直されそうな見通しがありました。今までは、東北信Bブロック全部合

わせても、長野教育会の会員数にも及ばないような状態で、運営されて来たのです。

これからは、一校二〜三名と言った動員も必要なくなるかも知れません。信教全県研究大会と研究委員会の活動を重ね合わせ研究を深めることができるかも知れません。

「近い・少数・同一」の本教育会の特性を生かして、会をどのように運営していけば、会員の連携を保ち、職能の向上に結び付くのか、建設的な議論を重ねてください。充実した活動を期待します。

した活動を期待します。

本校の中核活動

八木沢川探検

日滝小学校

日滝小学校では、地域に働きかける活動を通して地域の「あーもうやだ」と言っているのですが、教室で話し合うと「もっとゴミを拾ってきれいになりたい」と子どもたちは考えます。その中から、4年生の実

践を紹介いたします。

5月、サマールランド横を流れる八木沢川へ遊びに行きました。高いコンクリートの壁に囲まれた川の中に足を踏み入れると、早速子どもたちは石をひっくり返し顔を水面ぎりぎりまで近づけながら何かい

ないかと探し始めました。歓声はすぐに起こりました。沢ガニ、やごが見つけられました。沢さんのヒルやごみも見つけました。



教室へ帰って感想を話し合う中で、「ごみ拾いをしたい」「上流や下流へ行ってみよう」「どんな生き物がいるか調べたい」「きれいに泳ぎたい」「たくさん生き物が棲める川にしたい」などやりたいことがたくさん出てきました。

7月、高山村の赤和源流に行きました。澄んだ水、冷たい水、ごみのない川に驚きました。たくさんサンショウウオが見つかりました。ヤマメも

(中西裕一)

教育会だより

- 12・19 第8回同好会
- 1・16 第2回研究委員会 世話係・委員長会
- 1・20 第9回同好会
- 1・23 第6回研究小委員会
- 1・25 第2回同好会世話係・会長会
- 2・7 第7回常任委員会
- 2・20 第7回代議員会
- 2・26 第8回常任委員会
- 2・26 上高井教育会報第189号発行
- 3・5 第8回代議員会
- 3・15 上高井教育会誌第57号発行

生き生きとした活動を求めて

近藤 勇人

小山小学校に赴任して二年目を迎えた今年、大変充実した一年となりました。四月より、今年の重点においてきた生活科の野菜作りとお豆腐作りの活動を通して、先生方や子ども達から多くのことを学ぶことができました。中でも、お豆腐作りを通して、たくさん

の発見、収穫がありました。日曜日、本を見ながら初めてお豆腐作りに挑戦しました。ミキサーで大豆をしっかり砕けなかったため、お豆腐は固まりもせず、青臭さの残ったおからが大量に残りました。私は、こんな難しいお豆腐作り、子ども達はきっと失敗するだろうと思っていました。

しかし、子ども達は、私の期待を見事に裏切り、しっかりと固まったお豆腐を作ることができました。自分が失敗したことを子ども達に話して以来、立場は逆転し、子どもに教わりながらのお豆腐作りとなりました。

自信をつけた子ども達は、今度はお豆腐屋さんになげない豆腐を作りたいと言い出しました。近くの大坂豆腐店にお願いして見学させていただき、インタビューをしてきた子ども達は、それぞれに願いをもつことができました。

本番のお豆腐作りも、自分の納得できるお豆腐ができた子、そうでなかった子、それぞれでしたが、お豆腐を作れたことに、大変満足していました。

(小山小)

一筆を



井の中のめだか大海に出る

西澤直記

「よし明日からまた走る!!」
「森上小とまた練習試合したい。」
この言葉は、一月のクロネコドッジボールカップの決勝トーナメントで負け、涙を流した後の子供たちの声です。一人差で負け悔し涙を十分に流した後、子供たちは次の希望を持ち始め、いつまでも悔しがっていた私の心の扉を開けてくれました。思えば一年前の一月、五年生で初出場し、一勝一敗でホワイトリンクの廊下で泣いていたあの時を思い出します。まだ日野小という井戸の中

大自然の風の音

渡辺真知子

忙しい毎日の中で「信じ待って」「見守る」という心のゆとりがないなあと感じています。

そんな中で、先日、スーツと肩の力を抜いて、心が癒される一時を過ごす事ができました。私が担任しているクラスの保護者の中に、民俗楽器を自ら作り、演奏されていた中田秀一さんという方がおられます。その中田さんから、アンデス地方に伝わるサンポーニャという楽器の作り方を教わって、



更に演奏しよう、という会が持てたのです。静かにゆったりと話される中田さんの一言一言に、子どもたちも私も親も、思わず引き込まれてしまいました。色鮮やかな多くの民俗楽器も見せていただきました。何にも増してすばらしかったのは、生で演奏していただいた、サンポーニャやケーナの音色でした。サンポーニャは自然の風の音を表現しているのだそうです。大自然の中にすっぽりと

他県では学校からの依頼も多くオーケストラと一緒に演奏して巡るのか。こんなすばらしい人材を地元で活用しないのは、とてももったいない事だと思いました。これからも、このように地域の方や保護者の方に、教えていただくような機会を持って欲しいという保護者からの感想も寄せられました。

母として、教師として時間に追われる毎日ですが、中田さんから教えられた生き方はとても刺激的でした。これからも地域の方の生きた人材から、子どもたちと共に学んでいきたいと思っています。

(井上小)

振り返って

あいさつ運動

小口俊幸

豊丘小学校の一月の月目標は「お互いにしっかりあいさつをしよう。」でした。あいさつについては四月からずっと児童会代表委員会で「あいさつ運動」という形で取り組んできたのですがなかなか徹底できなかったで過ぎてきました。

代表委員会のあいさつ運動がみんなの心に届くように「あいさつ運動二〇〇一」と銘打ち一月の月目標を実現す

中国訪問で学んだこと

伊澤順子

お恥ずかしい話ですが私は今まで海外旅行に行ったことがありませんでした。

しかし、この記念すべき2000年、私は須坂市中学生第8次友好訪中団の引率として初めて中国に行ってきました。

旅行前には数回の研修会が行われ中国についての学習を行いました。中国に行ってみるとやはり驚くことばかりでした。

先ず驚いたのは、交流先

の中国の中学生が大変積極的に元気がよかったことです。六泊七日の旅行でしたが、中国の生徒との交流時間は大変短く、始めは「言葉も通じないしこんな短時間で仲良くなれるのかな」と心配でしたが、そんな心配はすぐに吹き飛びました。数時間の交流だけで生徒たちは大変仲良くなり、中国の生徒に手を引っ張ってもらいながら楽しそうに見学し

運動二〇〇一」の趣旨を放送し協力を呼びかけました。各クラスでは、先生に一回以上児童同士で三回以上あいさつをした子を担任が挙手で確認するようにバックアップしました。

こんなことをしていると児童に大きな変化が見えてきました。一つ目は、代表委員があいさつをするよりも先にあいさつをする子がほとんどになってきました。二つ目は、頭を下げてあいさつをする子が全校の1/3にもなりまし

にわざわざ寄って、いる先生とあいさつをしました。児童会が中心になって取り組み、教師はそれをできうる限り支援していく。二つが組み合ったときは学校全体を巻き込む有効な取り組みになることを眼の当たりにしました。児童はすごい力を持っています。月目標一つでも、「あいさつ運動二〇〇一」のように具体的な目標のある児童が主体の取り組みとそれを支える教師側の支援はそれを実現してしまおうということ学ばせてもらいました。

(豊丘小)



ている姿や、別れ際涙を流す姿もありました。生徒を見ていて、本当に言葉なんて関係ないんだなと思いました。この他にも初めての海外旅行で、毎日の食事やトイレ事情など驚くことも沢山ありましたが、今考えると大変勉強になると共に外国について考える良い機会になったと思います。生徒や他の引率の先生方にも恵まれ、大変充実した旅行になりました。今回この旅行で体験したことを是非今後に生かしていきたいと思えます。

(常盤中)

本校の宝 ③③

だいにしているもの

小布施中学校

「学校の宝は何ですか」と問われて、生徒や職員のだれもが納得するものをあげることは難しい。だが、「学校でだいにしているものは何ですか」と言われると答え易くなる。その中の二つを紹介してみたいと思います。

『学以致其道』

川村驥山書の扁額—
小布施町が誕生したのは昭和二十九年十一月で、三十三年十一月に小布施町立小布施中学校（現在地）が発足しました。その二年後に、

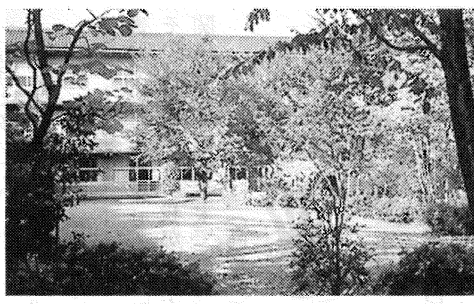
生徒たちの学校生活の充実を願い、
村松清、久保勇、
村田敬子、矢島美、
黒崎直太郎、呉羽
静子各氏より寄贈
されました。

「道に志す者は、
学問の世界に入って、それによって君子たるの道を完成して行く。」

本校の建学の精神として、
生徒たちに受け継がれていま
す。生徒昇降口二階のホール
に掲げてあります。

『和風庭園』

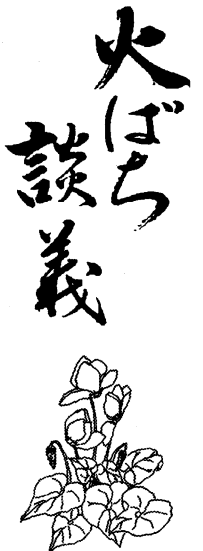
屋外環境整備事業として、
平成四年七月に完成しました。
二千四百平方メートルの広い



整備しました。目まぐるしい社会の変動・発展による物質的な豊かさの中で、人間の本来持っている心が失われがちな世の中にあって、子どもたちに心豊かに育ってほしいという願いから、中庭和風庭園が創設されました。四季折々の花が咲き、小鳥が訪れ、せせらぎに魚がはねる、ここは生徒の安らぎの場・憩いの場。

このように、恵まれた学習環境の中で、生徒たちはのびのびと学習に励んでいます。

(黒岩和博)



仁礼小 乾 ゆり

「家族も友達もにつきり。ダッチ・オーブン、楽しいですよ」

峰田 優子

「フライドチキンに中華料理、魚も焼けるし煮込み料理もできる。おまけにパンやお菓子も作れてしまう魔法の鍋」といっても、これは通信販売の番組の一説ではありません。その鍋の名は「ダッチ・オーブン」といいます。

この魔法の鍋に出会うきっかけとなったのは結婚祝いにといただいた鉄製のフライパンでした。説明が不得手ですが、このフライパンは上下ともにフライパンとして使え、下のフライパンの方が少し深めで上下のフライパンがびったりと同じ形で合わさるようになっていて、フライパンをしっかりと合せて用いると中の蒸気は外へ漏れ出さず、フライパンの中で素材から出たおいしいお汁が蒸し焼き状態にしてくれるのです。

うとアウトドア用品店に出掛けました。すると、そこにはいただいたものと似たような鍋類とそれらの鍋を使った料理を紹介する本があったのです。その本を手にとってみると、中には無数のレシピがおいしそうに挿絵とともに詰まっております。食いしん坊の私たちはすぐにその本を手にとり、家路を急ぎ、不思議なフライパン第1号となるフライドチキンを作ってみました。そのチキンの味ときたら言うまでもなく「絶品」でした。外はカリッと中はジューシー。それからは1週間に1回は食べたくなるのです。

その後、何を作っても「絶品」となるそのフライパンに取り憑かれ、さらにダッチ・オーブンの世界へと引きずり込まれたことは言うまでもありません。21世紀の幕開けにも大活躍してくれました。誰でも気軽に絶品料理が作れる魔法の調理用具は家庭を円満にし、また友達との輪(和)も広げてくれる優れ物です。

我が家の玄関には、二、三月前まで、武者小路実篤の「君は君、我は我されど仲よき。」という色紙が飾ってあった。私と主人は、あまり似ていない夫婦ではないので、お互い自戒の念でその額を毎日見ながら出勤していた。しかし、それが変わった。今、ある人のサインがその額の中に入っている。

その日は、2人で実家に預けている子供を迎えに行った。時間も遅かったので夕飯を途中で食べていくことにした。夫はラーメンを食べたかったようだが、私の希望で焼肉屋

HPを利用した授業の変化

堀田 幸雄

パソコンが児童・生徒用に学校に入ったのは、本当に近頃のことである。パソコンが学校に入って最初に始めたことは、学習ソフトなどのソフトを使って、パソコンの授業をやることだった。

ワープロで文章を作成したり、お絵かきソフトで絵を描いたりした。あるいは、算数ソフトなどを使って、学習の補助として

活用してきていた。逆に言うならば、必要なソフトがなければなにもできなかった。しかし、これからはインターネットを使った授業で、パソコンを使うようになる。これからの情報の授業は、パソコンのソフトを使った授業ではない。

また、子どもたちがHPを利用して調べるにも、ただ目的のHPへ行ったり、印刷してそれで終わった気になつては、もう一度きく、

お宝

小池 恵子

となつた。中野の焼肉屋に入った。その日は、スキー教室も終わり、性教育週間も終わった私の慰労も兼ねて、私はビール、夫はウーロン茶で乾杯となった。手のかかる2人のちびっ子はいいわ、おいしいお肉と冷たいビールで私がホクホクとしていると、夫がどうも落ち着かない、「知り合いいでもないの?」と、きくと

「いや、違いかもしれない。」と一人ブツブツ。でもどうも気になるようで、私の背中斜め奥の座席を妙に気にしている。

「どうしたの?」

「はい。」

「はい。」

編集後記



(高甫小)